高浜市長 所信表明演説（平成 25 年 9 月議会）

平成 25 年 9 月 12 日

【はじめに】

本日、ここに平成２５年９月市議会定例会の開会にあたりまして、２期目就任のごあいさつと所信の一端を申し述べさせていただき、議員各位をはじめ、広く市民の皆さまの、ご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、去る８月２５日の市長選挙におきまして、市民の皆さまをはじめ、各方面からのご推薦と力強いご支援を賜り、無投票での再選をさせていただきました。身が引き締まる思いがするとともに、２期目に向けての決意を新たにしているところでございます。

１期目の就任当時、前年の秋に発生したリーマン・ショックに端を発する「１００年に一度と言われる経済危機」の影響をまともに受け、それまで順調に伸びていた市税収入は大きく減り、歳出の絞り込みを余儀なくされました。市民生活に大きな影響がないものは先送りするなど、厳しい財政運営を迫られましたが、しかし、私は、この逆境は、むしろ将来に向けた自治体経営の基盤づくりのチャンスである。危機のときにこそ、かえって基礎をしっかりと固めることができる。次の成長につながるとの信念を持ち、市政運営の根幹となる「自治基本条例」や「第６次高浜市総合計画」の策定、今後の高浜市を支える「人づくり」の礎となる「生涯学習基本構想」や「教育基本構想」の策定、将来の公共施設のあり方を考える上での基礎となる「公共施設マネジメント白書」の作成、「公共施設あり方検討委員会」による基本方針等のとりまとめ、地域防災を構築する上での要となる「防災ネットきずこう会」の立上げなど、「高浜市の根っこづくり」に取り組んでまいりました。

「第６次高浜市総合計画」の策定では、「高浜市がこんなまちになったらいいな！」といった想いを、市民と職員が膝を突き合わせてとことん語り合い、120 回以上もの対話が重ねられました。市民映画「タカハマ物語」の制作では、エキストラを含む出演者、裏方、協力者など、子どもから高齢者まで約 6,000 人のご参加をいただきました。いずれも「かかわる」中から、新たな気づきや、まちづくりの原動力となる「まちを愛する心」が芽生えていった。そして、人と人とがつながる新しい輪も次々と生まれていきました。これらは、ほんの一例ではございますが、こうした取組みを通して、市民と職員の距離も縮まり、信頼感も高まってきたように感じています。

市民意識調査の結果を見ましても、７割以上の市民が「高浜市に愛着や誇りを感じる」、約８割の市民が「高浜市に長く住み続けたい」、９割以上の小・中学生が「高浜市が好き」とお答えをいただいており、その数値は、年々、上昇しています。

市民も行政も、みんなで力を合わせて、気持ちを一つにし、ともに汗を流すことによって、「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現に向けて、一歩、一歩、着実に歩みを進めてきた４年間でした。

さて、２期目を迎えた現在、自治体を取り巻く環境は、超高齢社会の到来といった人口

構造の変化や行政ニーズの多様化、国・地方を通じた財政危機など、依然として、厳しい状況に置かれています。特に、高齢化は、世界に類を見ない喫緊の課題であります。

しかし、厳しいときだからこそ、基本に立ち返る。しっかりと固めた礎の上に立ち、高浜市の強みを活かしていくことが、高浜市の未来を切り開く、「アシタのチカラ」につながっていきます。自治体経営の基本とは何か。それは「現場主義」であります。

職員とともに、信頼される行政を目指して、市民の皆さまと対話をし、ともに汗を流してまいりました。その中から「市民にとって真に必要な施策は何か、そして、どのような手法が適切であるか」を常に問い続け、一つひとつ、改善を積み重ねてまいりました。職員にも「地域が現場」「地域で生きる一員」という自覚が芽生えはじめ、市民の皆さまとの距離が縮まり、信頼感も高まってきたように感じています。「誠実さ」を大切に、「現場主義」を徹底するという原点。２期目も変わることなく、継続してまいります。

次に、まちづくりの方向性についてであります。本市は、人口が約４万６千人、面積が約１３km^2という「小さなまち」です。しかし「小さなまち」だからこその「強み」がある。それは、市民から職員の顔が見え、行政からも市民一人ひとりの顔が見える。つまり、身近で、きめこまかな対応が出来るということであります。

「小さなまち」だからこそ、一人ひとりが少しずつ力を持ち寄り、力を合わせて行動することによって、まちを動かす大きなエネルギーとなる。「まちがよくなってきた」という変化が目に見える形で表れ、実感できるようになることで、「もっといいまちにしていきたい」という、さらなる意欲につながっていく。そんな循環が生まれていきます。まちへの想いを共有し、力を合わせやすい。これは、本市の最大の強みといえます。

自治基本条例の前文には、まちづくりの決意として「私たちの愛するまちを未来へとつなげていくために」という言葉があります。初心を忘れることなく、現場である地域へ積極的に足を運び、市民の皆さまとの対話・行動の積み重ねを「高浜市の今をアシタにつなぐ」大きなチカラへと高め、大家族のような思いやりと絆が感じられる、日常の「心地よさ」を実感できるまちを、皆さまとともに築き上げてまいります。

【２期目の取り組みについて】

それでは、２期目の取り組みにつきまして、第６次高浜市総合計画に掲げる４つの基本目標に沿って述べさせていただきます。

はじめに、基本目標Ⅰ「みんなで考え　みんなで汗かき　みんなのまちを創ろう」でございます。

「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を創り上げていくためには、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、持っている力を出し合い、未来を切り開いていく大きなチカラへとつなげていくことが大切です。

現在の「高浜市の未来を創る市民会議」を発展させ、総合計画の進行管理だけに捉われない、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」や「心の豊かさ」を市民と行政の協働によりデザインし、実践につなげていく取り組みを進めてまいります。その一つとして、まちへの愛着や誇りを育み、まちの「日常」を元気にしていくため、歴史や自然をはじめ、今日まで受け継ぎ、培ってきた伝統や文化、特産品など、高浜市すべての魅力や自慢を市民の皆

さまとともに掘り起こし、編集・発信していく取り組みを新たに始めてまいります。

財政運営では、歳入の大幅な増加が見込めない中、今後も安定した行政サービスを提供するため、中長期的な視点に立ち、将来にわたる課題に計画的に取り組んでまいります。

高度経済成長期に整備された本市の多くの公共施設は、近い将来、大規模改修や更新の大きな波が訪れます。現在、「公共施設あり方検討委員会」から提出された「公共施設マネジメント基本方針」や「改善計画（案）」の内容を踏まえて、職員プロジェクトを中心に「公共施設保全計画」のとりまとめを行っております。これらに沿って、今後、長期的な財政見通しを作成し、計画的な財政運営に当たってまいります。

次に、基本目標Ⅱ「学び合い　力を合わせて　豊かな未来を育もう」でございます。

子どもたちは次の世代を担う宝です。子どもたちが心豊かにたくましく成長し、様々な感動や体験に出会い、夢と希望を持って、未来に力強く羽ばたいていけるように、高浜市全体を「みんなの学び舎」ととらえ、「教わりたい人」と「教える人」とがつながりあい、学びの輪を広げていく取組みを進めてまいります。

働きながら、安心して子どもを産み育てることができる環境を整えるため、民間園の設立支援や定員拡大など、子育てを総合的に応援する体制を強化し、待機児童ゼロの実現を目指してまいります。

教育では、子どもたちが確かな学力と豊かな心を身につけ、高浜市の将来を担う人材として育っていくように、「個々の子どもの成長のためにどうするか」という子どもの視点に立った取り組みが大切です。現在、教育委員会では、幼保・小・中「１２年間」の学びと育ちをつなげる一貫教育の指標として「卒園時、卒業時までにこれだけは身につけさせておきたい」という発達段階に応じた「目指す子どもの姿」の明文化に取り組まれています。この「目指す子どもの姿」を家庭や地域と共有して、地域ぐるみで子どもの成長を見守り、支える取り組みを教育委員会と連携して進めてまいります。

次に、基本目標Ⅲ「明日を生み出すエネルギー　やる気を活かせるまちをつくろう」でございます。

安全・安心の確保は市民生活にとって何よりも優先すべきものであり、東日本大震災や頻発する集中豪雨など、自然災害の猛威を目の当たりにし、その思いを一層強くいたしました。先の東日本大震災では、防災教育に力を入れてきた地域とそうでない地域とでは、人的被害が大きく変わりました。そこで、地域の将来を担う子どもに対する防災教育に力を入れ、市民・地域・学校の連携を含めた地域防災力の強化を図ってまいります。

産業は、地域ににぎわいと活力を生み出し、雇用の確保や安定した財政基盤の強化に向けて欠かすことができません。新たな工業用地の創出や企業誘致に向けたワンストップ体制の構築など、企業誘致の姿勢を内外にアピールし、企業誘致・拡張支援に向けた取り組みを最も重要なテーマの一つとして積極的に推進してまいります。

地場産業の振興では、復興の進む東北を重点地域と位置づけ、三州瓦の販路拡大に力を入れてまいります。

次に、基本目標Ⅳ「いつも笑顔で健やかに　つながり１００倍ひろげよう」でございます。

高齢化への対応といたしましては、認知症への取組みと生涯現役のまちづくりを重点的

に進めてまいります。

認知症対策では、医師会との連携・協力をいただきながら、認知症の「早期発見・早期診断・予防・啓発」を効率よく行える体制を整えるとともに、認知症グループホームの設置支援、権利擁護センターの設置など、総合的な取組みを進めてまいります。

生涯現役のまちづくりは、高齢者の外出支援、生きがい・健康づくりを応援する取組みであり、介護予防が市へ移管された場合、受け皿として十分効果が期待できる事業でもありますので、現在、高浜南部・吉浜の２つの地区で実施している取組みを、全市に広げて展開してまいります。

開設後２年半が経過した「こども発達センター」では、障がい者相談支援事業所など関係機関と連携し、子どもの出生から将来の地域生活や就労を見据え、ライフステージに応じたサポートを行っています。

５歳児健診も開始３年目を迎え、健診として定着していますが、現在、日本福祉大学こども発達学部の協力をいただき、５歳児健診の結果を検証し、健診項目や３歳児健診との関連性などについて、調査研究を行っています。今年、５歳児健診初年度の子どもが小学校に入学したことから、１年生を対象にアンケートを実施し、子どもの成長の検証や課題等を整理し、健診へ反映させるなど、子どもの育ちの支援につなげてまいります。

また、日々保育や教育で直接子どもと関わる保育士・教諭との連携を強化し、子どもに関わる支援者が力を合わせ、就労までの総合的な支援体制を整え、乳幼児・児童・生徒、一人ひとりのニーズに応じた、子どもとその家族をより確かな形で支えてまいります。

育児・介護・健康など、不安を抱える人が気軽に相談できる総合窓口として、受付窓口を「高浜版地域包括支援センター」に一本化し、本人や家族に対して、困りごとに応じたきめこまかな支援をしてまいります。

【おわりに】

以上、２期目の市政運営にあたり、私の所信の一端を申し述べさせていただきましたが、これらの実行にあたっては議員各位、並びに市民の皆さまのより一層のご支援・ご協力なくしては、成し得ることはできません。今後ともより一層のご指導・ご鞭撻を賜ることをお願い申し上げ、所信表明とさせていただきます。